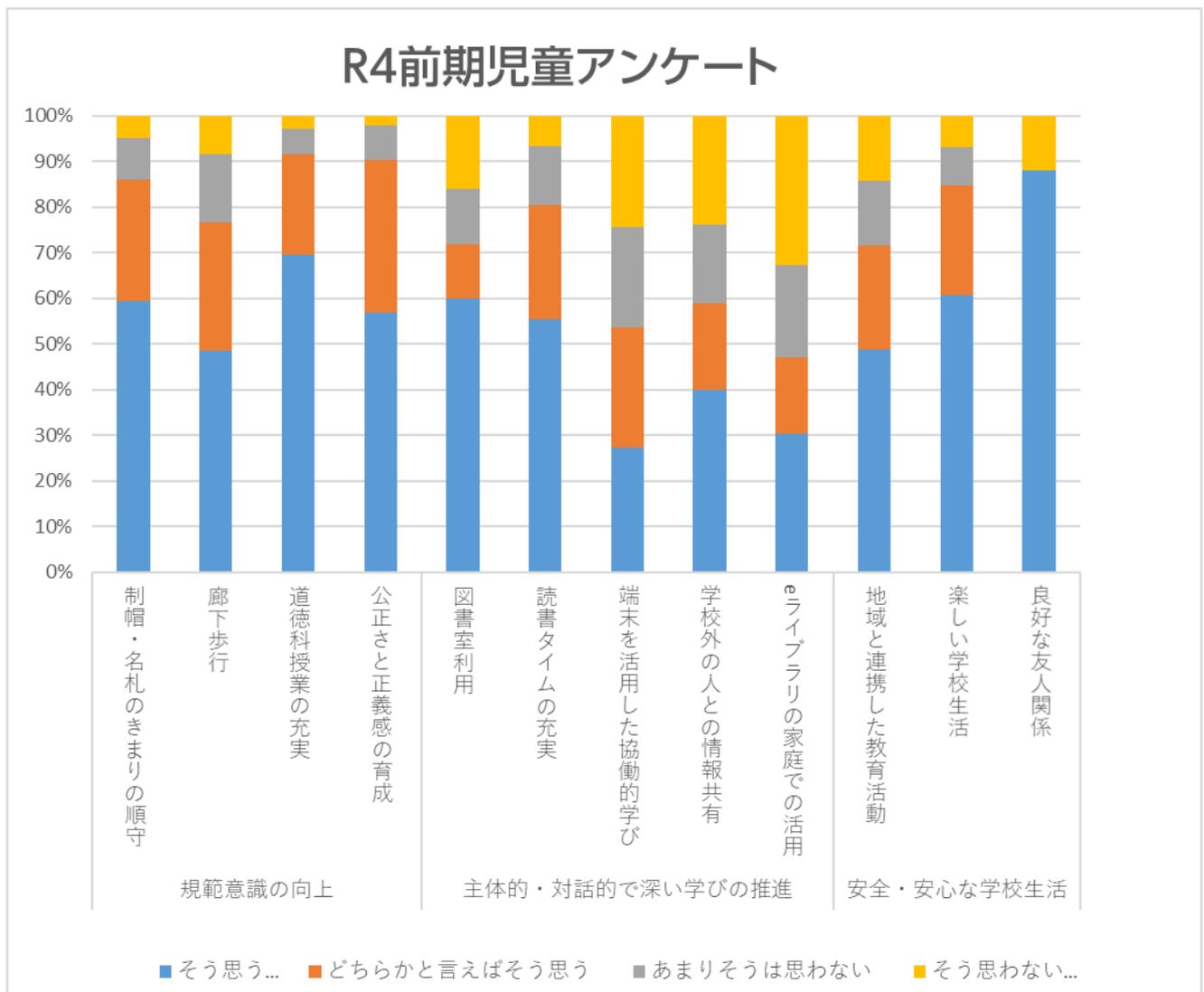


＜令和4年度 前期 児童アンケート R4.6.27 実施＞



1、規範意識の向上に関すること

(1)制帽を着用して登校しましたか。また、校内では名札を付けていましたか。

「そう思う」と回答した児童は 59.4%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は 26.6%で、合計 86.0%の児童が肯定的な回答をしました。制帽の着用については、低学年の割合は高いのですが、高学年になると低下します。その理由は「面倒だから」「髪型がつぶれてしまうから」「友だちがかぶっていないから」です。しかし、教員の呼びかけによって、少しずつ改善されてきました。制服とともに制帽は 40 年以上の歴史を持つ鹿ノ台小学校のシンボルであり、鹿ノ台小学校に通う子どもであることの証なのです。

また、名札の着用率も上がってきたように思います。以前、全校朝会で名札を付ける意味を子どもたちに話しました。大人社会でも名札を付けて仕事をします。それは、自分の言動に責任を持つため、学校でも同様です。胸を張って、自分に自信をもって学校生活を送るために名札を付けます。本校には 570 名以上の子どもたちが在籍していますが、「いいことしてるなあ。」とか「素晴らしいなあ。」と思って褒めたくても、名札がないと褒めるタイミングや機会を逃してしまいます。

制帽と名札の決まりは学校生活を送る上での些細な決まりですが、それをきちんと守れる子どもを育てようと思います。

(2)廊下を走らず、右側を歩きましたか。また、雨の日の遊び場にしませんでしたか。

鹿ノ台小学校の廊下は非常に狭く、特に給食の準備や後片付けで全校児童が一斉に移動する時は、安全面への配慮として、学年ごとに通行する廊下や階段を決めています。昨年はそれでも休み時間になると、廊下を走る子どもが多く、また、廊下を鬼ごっこの遊び場にしている子どももいて、手の空いた教員は廊下に立って指導していました。本年度はバリアフリーの観点から、校舎内で車いすを利用できるよう体制を整えたいと思いましたので、学校生活の決まりとして「廊下を走らない」というめあてを立てています。

しかし、この設問に「そう思う」と答えたのは半数以下の48.5%、「どちらかと言えばそう思う」と答えたのは28.1%で、合計76.6%しかありません。全ての子どもたちが安全に、そして、安心して学校生活を送れるよう、この決まりを守れる子をもっと増やさなければいけないと感じています。

(3)良いことと悪いことの区別をつけること、間違いを素直に認めること、規則や決まりを守ることを、道徳の時間に勉強できましたか。

この設問に「そう思う」と回答した児童は69.4%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は22.1%で、合計91.5%が肯定的な回答をしています。今年度は全学年で定期的に規範意識の向上に関わる授業を行っており、子どもたちに「ルールは何のためにあるのか」「決まりを守らないとどうなるのか」を考えさせる学習ができたと思います。しかし、よく職員室で話題になるのが、「注意をしても『自分だけじゃない』『自分ばかり注意されるのはおかしい』と開き直る子がいて、自分の間違いを素直に認めようとしない子がいる。」ということです。してもいいこととやってはならないことの区別はついているのですが、自分が注意されることを極端に恐れ、回避しようとする傾向があることは否めません。今後はその指導にも力を入れていきたいと思っています。

(4)友だちにも先生にも、真心を持って公平な態度で接し、みんなで協力して良い学級や学校を作っていこうとしましたか

「そう思う」と回答した児童は56.8%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は33.6%で、肯定的な回答をした児童は90.4%でした。新聞やニュースなどでも度々報道されていますが、いじめによる自殺や自分自身の気持ちのコントロールができない故の問題行動等、教育界は深刻な問題を抱えています。全ての子どもが、そして、全ての教職員が幸せだと思える学校にするため、本校ではいじめに関するアンケートを毎学期実施し、気になる子どもたちには面談を行っています。

また、昨年度からはLGBTQの学習を取り入れました。性的少数者への理解を高め、子どもたち一人一人が多様性を受け入れた実践力を身に付け、豊かな心を育むことがねらいです。偏見や差別のない学校にするため、2学期には講師を招聘し、全ての学年でLGBDQの授業を行います。

2、学習について

(5)図書室で本を借りて読んでいますか。

「そう思う」と答えた児童は60.0%、「どちらかと言えばそう思う」と答えた児童は11.9%で、合計71.9%が肯定的回答をしています。図書室の蔵書は7月1日時点で10524冊です。学校図書館司書が主に蔵書の管理をしており、毎年破損のひどい書籍は廃棄し、新しい本を購入しています。昨年度は463冊の本を新規購入し、271冊の本を廃棄または学級文庫での活用としました。せっかく身近に貸してもらえる本

があるのですから、子どもたちにはどんどん図書室を利用してもらいたいです。そこで、本年度は個人懇談会や参観日に、昇降口に図書室の蔵書を置いて、保護者の皆さんに「お子さんに読ませたい本」を借りてもらえるようにしました。また、図書委員会メンバーによるビブリオバトルは昨年度好評でしたので、今年も行う予定です。

(6)毎週月曜日と金曜日の読書の時間には、あらかじめ自分で読む本を決め、20分間集中して本を読んでいますか。

「そう思う」と回答した児童は55.3%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は25.1%で、肯定的な回答をした児童は80.4%でした。本年度から月曜日と金曜日の朝の20分間を全学年の読書タイムに設定しています。その時間に合わせて地域の方に読み聞かせに来ていただくこともありますが、今までは主にその対象が低学年児童でした。しかし、1学期に初めて6年生児童への絵本の読み聞かせをしていただきますと、子どもたちにはなかなか好評で、絵本の世界に引き込まれていく様子が見えかけましたので、2学期にも実施する予定です。

(7)タブレット端末に学習の資料や自分の考えを入力し、みんなに知ってもらうことができましたか。友だちの考えに対して、賛成や反対の意見を言えましたか。

この設問に対して「そう思う」と回答した児童は27.4%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は26.2%で、合計すると53.6%しかありませんでした。そして、「あまりそう思わない」は22.1%、「そうは思わない」は24.3%です。ここ2年でGIGAスクール構想は急速に進みました。GIGAスクール構想はICTを授業で使うことが目的ではなく、言語能力を基盤として自分の考えをまとめたり、他者の考えや思いを読み取ったりする活動を通して情報活用能力を高め、その能力を活かして問題発見能力や問題解決能力を身に付けさせるものです。しかし、まだまだ教員側の授業観の転換に至っていないことは認めざるを得ません。今後研修を通して、教員が学び合える環境を作らなければいけないと思いました。

(8)授業中に、タブレット端末で、その場にはいない先生や友だちと勉強することがありましたか。

ICTを使った学習のねらいの1つに、ネットワーク力を高めることがあります。絆を深め、よりしなやかで断ち切られにくいものにする、また、ネットワークを常に外に開かれたもの、外部へと広がっていくものにするのも重要です。チャット等への不適切な書き込みのように、閉じたネットワークは内部に対して同調圧力を加え、外部を排除するものに容易に転化してしまいます。だから、良いネットワークを作ることに貢献できる力を子どもたちにつけさせることが大切だと考えます。

この設問に「そう思う」と回答した児童は40.0%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は18.9%だったので、まだまだ各学年で具体的にどう取り組むかの検討が必要だと思いました。

(9)eライブラリを使って、家で勉強しましたか。

生駒市では全ての小中学校にeライブラリという学習支援アプリを導入しています。しかし、この設問に「そう思う」と回答した児童は30.4%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は16.6%しかいませんでした。使ってみると、普段のミニテストとは違う効率と効果を実感できると思います。それは、①作成や印刷の手間がいらない。②一人一人の児童に合わせた問題を提供できる。③即時に採点され、確認問題も提示できる。④ヒントや解答の解説が充実している。⑤学習履歴が残る。といったことです。学校でも授業のまとめの時間や家庭学習の課題としてeライブラリを使っていますので、ご家庭でも積極的に活用していただきたいと思

います。

3、学校生活全般について

(10)地域の方に教えてもらったり、一緒に活動したりして思い出に残る勉強ができましたか。

この設問に「そう思う」と回答した児童は 48.9%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は 22.6% で、合計 71.5%が肯定的回答をしています。地域の方に見守られながら学習を進めることは、コミュニティ・スクール構想の基盤となる考え方で、本校も昨年度から積極的に実施しています。地域の方は教員とは違う視点で子どもたちを温かく見守ってくださいますので、授業後に聞くお話から、生徒指導のヒントをいただけることもしばしばあります。子どもたちは担任の先生以外の人からお話を聞いたり、一緒に何かをしたりすることをとても楽しみにしていますので、これからも支援していただける方を募集していきたいと思います。

(11)学校での生活は楽しいですか。

この設問に「そう思う」と回答した児童は 60.8%、「どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は 24.0%でした。勉強が楽しい、友だちといることが楽しい、委員会や係の仕事にやりがいがある、行事が待ち遠しいなど、楽しんで学校に来てくれる子どもたちがいることはうれしいのですが、その一方で、約 80 人の子どもたちがこの設問に否定的な回答をしています。その子どもたちを担任だけでなく教職員全員で見守り、少しでも楽しさを学校で見つけられるよう、支援していかなければならない必要性を感じました。

(12)いじめられて困ったことや悩んでいることがありますか。

この設問に、12.1%、64 人の児童が「ある」と回答しました。6 月 20 日に、全校一斉に「こころといじめのアンケート」を実施し、集計を終えてからは、気になる回答をした児童に聞き取りを行っています。また、スクール・ソーシャル・ワーカーと指導主事を招いて、担任が指導について相談をしました。一刻も早くいじめを解消し、悩んでいる子どもたちの心を穏やかにすることに、学校は今、専念しています。保護者の方にも、お子さんのことで何か心配なことがあれば、すぐに連絡していただけるよう、働きかけたいと思います。